

# Panasonic NPO サポートファンド 子ども分野 2011年助成事業 成果報告会

## 助成事業名

ハイチの貧しい子どもたちの命を救う  
「マニョック芋を加工する給食設備」の建設

## 始めに～ハイチ共和国概要～

- ハイチは1804年世界初の黒人共和国としてフランスから独立しました。しかし以来、強国の圧力や、続く国内の政治抗争により、国民生活の貧富の差は激しく、世界の最貧国です。
- 2010年1月12日マグニチュード7の大地震が発生し首都ポルトプリンスを中心に建物の崩壊、300万人以上が被災し30万人以上の犠牲者が出て、2年を経過した現在も50万人以上がテント生活をしています。
- 言語は、現在の国民の祖先がフランス植民地時代にアフリカから連れてこられた奴隷だった歴史からフランス語とアフリカの言葉の混合という意味のクレオール語を使っています。  
マニョックはフランス語で、英語ではキャッサバと言い、粉にすると片栗粉のようなデンプンになります。



# 組 織

私たちは農業で今日のいのちを守り、教育で明日のハイチを育てる事業をしてきました

「ハイチの会」は、「ハイチの会」は エンシュ市ボナビ村の貧しい子どもたちに識字教育を、地域農民に農業の支援を、26年間続けています。

2001年ハイチ人青年を招致し1年間農業を学び帰国、エンシュ市に住民家族共同体KFP(Kominote Familyal Peyizan)を設立し、約300家族が参加しています。



ハイチは識字率が約50%と低く、この地域では教育施設は今まで全く無く、地域の人々は学校が出来ることを熱望していました。

2007年、農園内に児童数300名の小学校を地区で初めて建設しました。

学校は教育だけでなく、給食で子どもたちに1日1食を提供し、いのちを守ります。



# 背景

## ハイチは世界の最貧国

国民の55%が1日1ドル以下で生活し  
約80%は劣悪な貧困状態

国全体を救うことはできないけれど・・・

組織を活かしてできること・・・

- 給食で子どもたちに1日1食のいのちを守ります。
- マニョック芋は栽培が容易です。
- **マニョック芋が採れても カッサブに加工する設備がなく食用にできなかった。**

# 目 的

## マニョック芋をカッサブにして食糧にする

マニョクの根っこを粉にして、パンのようなハイチでは一般的な食べ物カッサブに加工する設備を建設して、「ハイチの会」が支援して設立した小学校の給食にします。  
給食設備を作ることで拠点の充実を図ります。



ハイチの貧しい子どもたちに1日1食を食べさせる給食を行います。  
十分な給食をするためには、ハイチで豊富に栽培可能なマニョック芋を加工する設備が必要です。



- 給食設備の充実で持続的な子どもの拠点を充実させます。
- 現地NGO団体(住民家族協力体)は、マニョック芋の栽培が継続できるので農業による自立を目指し農民の持続的成長を促します。



# 目 標

## 多くの子どもたちの命を救いたい

子どもたちは、貧しさから家庭では1日1食を食べさせてもらえず、栄養失調で多くの子どもたちが命を落としています。空腹の子どもたちは仕方なくストリートチルドレンになって行きます。学校に通う児童は約300人ですが、兄弟や未就学児童は学校給食さえも食べられず、お腹を空かせています。学校に通う児童だけでなく多くの子どもたちの命を救うことを目標とします。

右手に泥クッキー  
左手にカッサブ



ハイチでは食べるものが無いと泥で出来たクッキーを食べる

国民の58%は慢性的に栄養不良で、乳幼児は1000人のうち54人が1歳未満で死亡し(日本2人)、衛生状態も悪くトイレを使える人は19%です。

# 実施概要

## <経過>

2011年1月～建設場土台作りと機材購入

3月～マニョック芋の栽培と収穫

4月～マニョック芋加工設備工事

5月～マニョック芋加工設備完成とカッサブ調理開始

7月～給食にカッサブを提供した



## <会計>

資金は、日本からハイチにロイズ銀行で送金しました。

パイプ、鉄棒、塩ビパイプ、木板、ブロック等の購入費、運搬費、作業員人件費として約200万円掛かりました。



## <カッサブ>

ハイチは暖かく、苗は良く育ち、マニョックは2～3年で 高さ約150cmに育ち芋は1本のマニョックから5～10個採れ、苗をローテーションで育てれば1ヶ月に数回の製造が可能です。

今年は初めてで、苗を育てるローテーションが出来ていなかったもので、1か月に1回のカッサブ製造がやっとできる程度でした。

1回の製造に、約1500㎡の畑から牛車2杯分の芋が採れ、小カッサブが約800枚製造できました。



# 成果

- ① 給食施設建設は、子どもたちへの持続可能な給食支援として、学校の組織基盤の強化、**持続的な子どもの拠点の充実**になりました。
- ② マニョックの有効利用、カッサブ製造が出来るようになったので、地域農民はマニョックを計画的に栽培し農業での自立につながり、農民組織KFPの組織基盤の強化、**農民の持続的成長**になりました。
- ③ 持続可能な組織となるように、現地KFP役員の交代を行い、順調に**自立への道**を辿っています。
- ④ ハイチは治安が良くないので不安が伴うものの、持続可能な支援活動をめざして次世代を担う人々を現地に派遣し**人材育成、次世代教育の成果**を得ました。



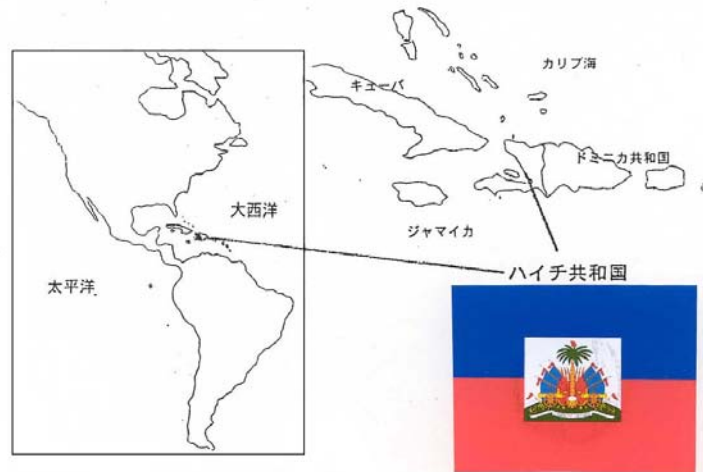


# 今後の取り組み

## インターネット環境を整える

### 背景

- ①インターネット環境のある場所まで行き、日本との連絡をするだけでも2日掛かっています。
- ②パソコンやインターネット技術を習得できる教育環境がありません。
- ③英語圏ではなくクレオール語を日常使っています。



### 「ハイチの会」

名古屋市瑞穂区八勝通2-29-4

〒467-0042 TEL090-3259-0890

Fax052-831-7724

Mail :nakanonagoya@pop21.odn.ne.jp

郵便振替口座 00800-8-124996

ハイチの人々はカッサブを作るたびに日本からの支援に感謝することでしょう。  
私共もハイチの人々と共に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。